

ストロンチウム光格子時計「Aetherclock OC020」が 2025年日経優秀製品・サービス賞 最優秀賞を受賞

「日経優秀製品・サービス賞」は、日本経済新聞社が選定する優れた新製品・新サービスを表彰する制度です。2025年3月発売のストロンチウム光格子時計「Aetherclock OC020」は原子時計の一種で、現在の「秒」の基準となっているセシウム原子時計の100倍以上の精度を実現します。2025年6月に(国研)情報通信研究機構(NICT)から第

一号機を受注しました(NICT落札者公示)。(2026.1.5)



ストロンチウム光格子時計「Aetherclock OC020」

2029年夏に新たな企業ミュージアムを開館へ 世界的な建築家・伊東豊雄氏を起用

当社創業150周年記念事業の一環として「島津科学技術ミュージアム」(仮称)を建設します。計画地は武田五一監修の当社旧本社に隣接する象徴的な場所です。設計にはプリツカー建築賞受賞の建築家・伊東豊雄氏を起用。新ミュージアムは、当社の歴史的資産と最先端の科学技術を結ぶ文化拠点として

2029年夏開館予定です。創業記念資料館との2館体制で150年の軌跡と未来への展望を発信します。(2026.1.19)



現行の島津製作所 創業記念資料館

京都フュージョニアリングと共同で核融合発電施設向けターボ分子ポンプの試作機を開発 カナダでトリチウム環境下での性能試験の実施へ

京都フュージョニアリング(株)と共同で核融合発電施設向けターボ分子ポンプ(TMP)の試作機を開発しました。核融合炉で反応しなかったトリチウムや重水素の回収・再利用をはじめさまざまな工程で、TMPなどによる真空技術が求められます。今後は同社らがカナダで建設中の統合試験プラント「UNITY-2」で性能試

験を実施します。(2025.12.3)



京都フュージョニアリングと共同開発したターボ分子ポンプの試作機

2025年度島津賞・島津奨励賞受賞者決定 研究開発助成は23件を選定

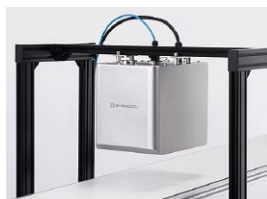
島津科学技術振興財団主催の第45回島津賞が東京大学定量生命科学研究所教授の胡桃坂仁志氏に贈られました。同賞は科学計測の基礎的な研究における功労者を表彰するものです。胡桃坂氏はエピゲノム情報を含むクロマチン複合体を試験管内で再構成する独自の技術を確認し、世界的に高水準な技術へと発展させました。ま

たクロマチン複合体の立体構造を明らかにし、構造の変動メカニズムを解明するなどクロマチン構造と機能の研究において卓越した成果を上げました。なお、島津奨励賞に3人が選出され、45歳以下の研究者を助成する研究開発助成に計23件が採択されました。(2025.12.15)

非破壊・非接触で水分率をリアルタイムでモニタリング 食品工場向けインライン水分率モニター「MMSシリーズ」を発売

本製品は(国研)産業技術総合研究所が開発した水分量を電磁波で計測する技術をもとに当社が製品化したものです。コンベアや運搬トレイの上部に設置し、食品の通過時にその水分率をリアルタイムで測定します。生製品の水分率のばらつきを抑えることで品質の均一性を保ち、製造管理を支えます。本製品は日刊工業新聞社が選定する「2025年

十大新製品賞」を受賞しました。(2025.8.26)



インライン水分率モニター「MMSシリーズ」

テニスチーム「SHIMADZU Breakers」が大活躍 第40回テニス日本リーグ準優勝、 東京2025デフリンピック女子ダブルス金メダル

プロ契約選手と社員選手の計7人で挑んだ団体戦の第40回テニス日本リーグにおいて準優勝しました。個人では、菰方里菜選手が東京2025デフリンピック(2025年11月)で女子ダブルス金・シングルス銅メダルを獲得。山崎郁美選手が第100回全日本テニス選手権(同年10月)

の女子ダブルスで優勝するなど大きな成果を上げました。



©長浜功明

※NEWS & TOPICSでは法人名・団体名を以下のように省略しています。株式会社…(株)、国立大学法人…(大)、学校法人…(学)、公益財団法人…(公財)、一般社団法人…(社)、相互会社…(相)、国立研究開発法人…(国研)
※記載されている会社名、製品名、サービスマークおよびロゴは、各社の商標および登録商標です。なお、本文中では「TM」、「®」を明記していない場合があります。※所属・役職は取材当時のものです。

〈読者の皆さまの声〉

◆ 国枝慎吾さんのファンで、記事を楽しみ拝見しました。◆ 和紙の記事にとっても興味を惹かれました。手づくりや伝統の技術の後継者が減っていると聞かなかで、先を見据えて技術を伝えていく大切さを感じました。放射線科医も放射線技師も今後どのようにAIと付き合っていくべきか検討する必要があると考えます。◆ 弘前大学の石橋恭之教授がスポーツ整形の研究に取り組まれていることに大きな関心を持ちました。特に同大学のトモシシシスの検査数には非常に驚きました。◆ 放射線関係の職業なのでレントゲン博士のことは知っていても、日本での放射線研究の先駆者は知らなかったのが勉強になりました。◆ 見出しや写真の配置なども読みやすいように考えられている気がして、スルスルと読めました。また読みます。

〈編集部より〉

本をどれぐらい読んでいますか。ある調査ではひと月に本を1冊も読まない人は6割を超えるそうです。日本の書籍販売数は1996年をピークに減少を続けていますが、1年間に何点の新刊本が出ているかご存じでしょうか。その数およそ7万点。1日あたり200点ほどが発行されていることになりました。活字離れをしていた私ですが小誌の編集メンバーになったのを機に、本好きな友人の影響を受けて本を読む時間が増えました。世に出るあまたの本のなかから特別な1冊と出会えたら素敵ですね。ただ読書数が増えるとその印象が薄れていくのが困りもの。そこで友人のすすめで始めたのが読書ノートの作成です。ノートを読むとそのときの感動が蘇ります。ページをめくるたび知らない世界が立ち現れ、新しい自分に出会える読書。いつまでも続けていきたいですね。(T)